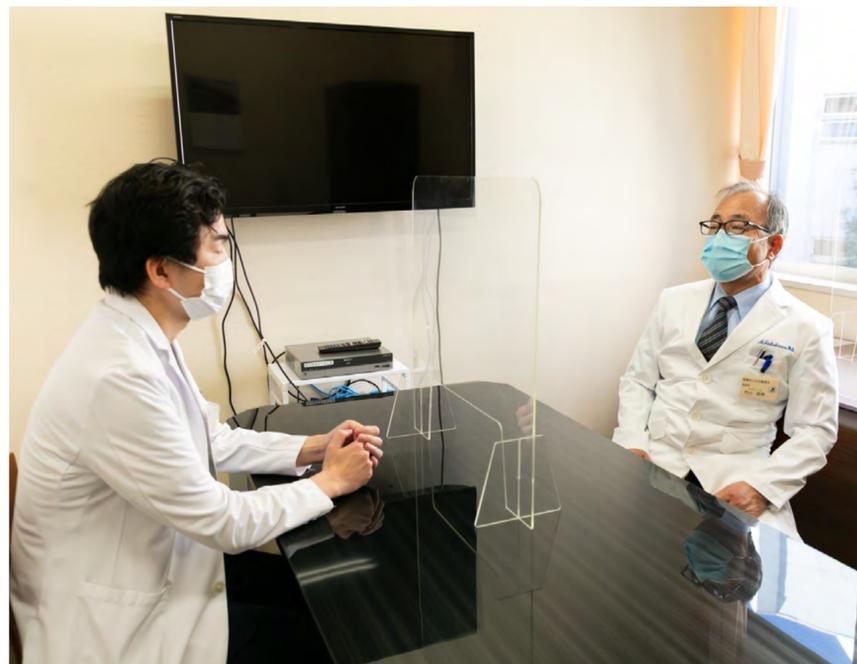


# オミクロン株による感染拡大 重田院長に聞く石川島記念病院の現状

医療法人社団 健育会 理事長 竹川 節男

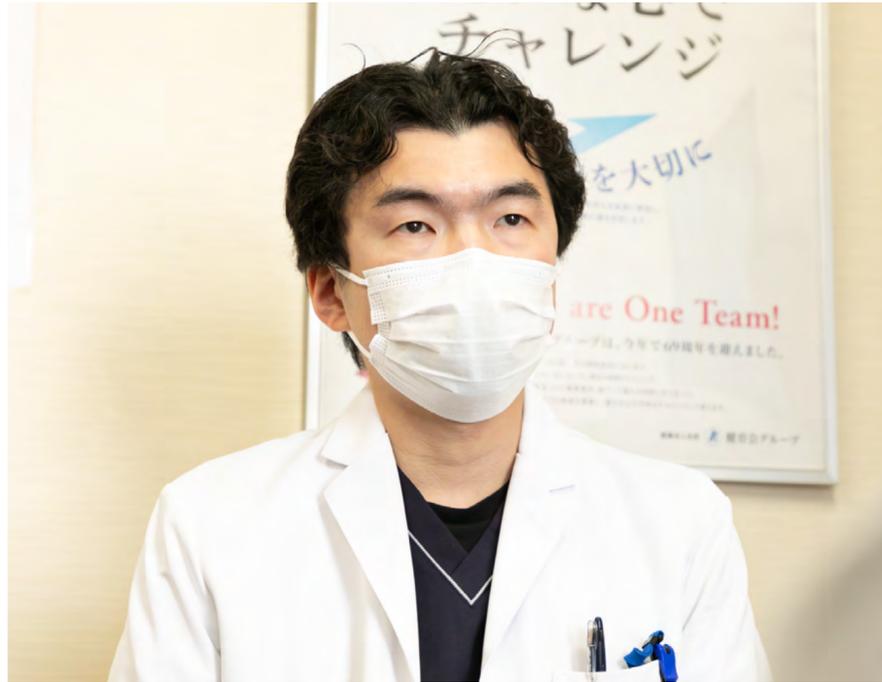


オミクロン株の出現により、劇的な感染者増加が続く今日。都内では10人に1人の確率でかかるともいわれています。健育会グループではいずれ到来する第6波を予測し、先んじてコロナ患者専用病床を開設しました。そのひとつである石川島記念病院・重田院長を訪ね、現状をヒアリング。最前線でコロナ患者と向き合う医師たちの強い思いが浮かび上がりました。



石川島記念病院は2021年9月27日、中等症患者を受け入れるコロナ専用病院として新たなスタートを切りました。当時からすでに第6波はかならず来ると予測して18床用意しましたが、オミクロン株が猛威をふるう現在（2022年2月上旬）、満床の状況です。

日々業務に追われる石川島記念病院・重田洋平院長のもとを訪れ、コロナ専用病棟への転換から現在に至るまでの状況を伺いました（1月31日収録）。



### 9月から現在まで—— 入念な準備期間が現在につながる

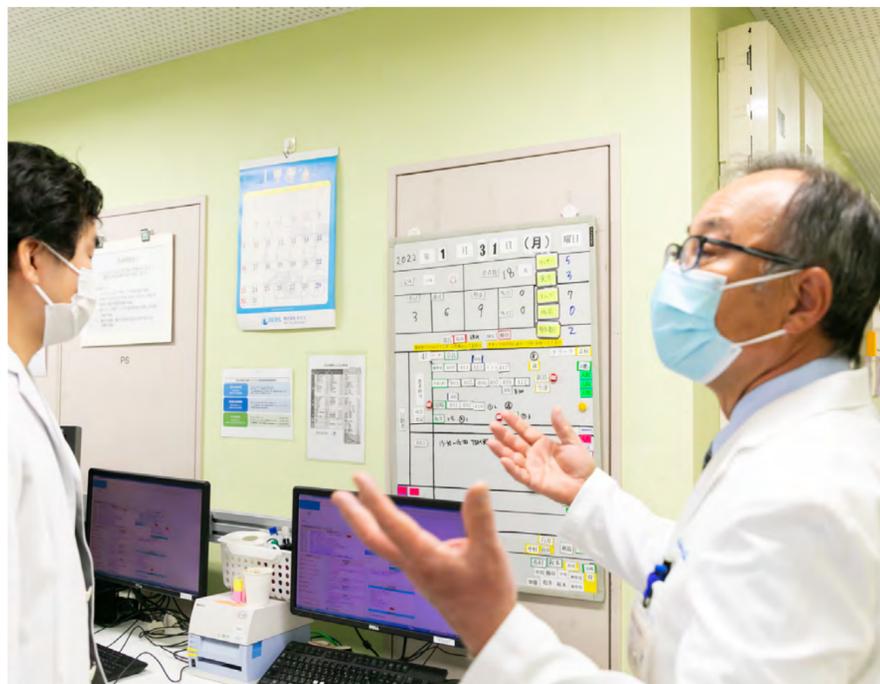
石川島記念病院がコロナ患者受入れ専用病床を開設した当初は、第5波が収束したころでした。10～11月に施設のクラスター患者を一手に請け負いましたが、しばらくは落ち着いた状況。その間に入念な準備できたことが、現在の対応につながっています。他病院と情報交換をして、治療のプロセスなどを教えてもらい、院内のシステムに落としこむことが十分にできた。感染対策に関しては、以前の取り組みに加え、改めて講習を行いました。現状はまだ使っていませんが、人工呼吸など緊急の挿管、気管内挿管に際してのリスクをいかに減らすか修練できました。そのため、スタッフを含め、いざとなったときの対応に備えています。これまで準備してきたことが、いま形となってできている状況です。





### 感染者が急増する現在… 石川島記念病院での対応は？

12月上旬に国内初のオミクロン株陽性者が空港検疫で確認されましたが、当時は陽性患者の対応は感染症指定病院のみでした。患者は増えていましたが依頼はなく、当院で初めてオミクロン株の患者を受入れたのは12月31日のことでした。それ以降、徐々に増え、1月13日ごろからは入院依頼が格段に増えてきたと記憶しています。正式に満床になったのは1月21日で、現在に至るまでずっと満床の状態です。



近隣の保健所とも密に連携を取れているため、「今日、陽性が出ました」とその日に入院依頼がくる状況です。平均在院日数は8日。感染者数の急増に伴って入院が遅くなっており、それは望ましい状況ではありません。早い段階でキャッチアップして、適切な対応をすることが重要です。患者の平均年齢は64歳ですが、日を追うごとに高齢化しています。



### オミクロン株の症状、スタッフへの影響は？

PCR検査の圧迫を軽減するため、東京都の指示に従って、現在デルタとオミクロンを鑑別する検査は行っていませんが、1月中旬までデルタと診断した患者はいました。オミクロンは確かに軽症例が多いですが、軽症でも症状はとてつらそうです。中でもワクチンを打っていない方や基礎疾患のある方と高齢者にとってリスクは十分にあると思います。



オミクロンが増えてからも、スタッフの対応は変わっていません。以前から行っている対策をそのまま徹底して継続しているだけですが、今現在、オミクロン株による当院スタッフ感染例はゼロです。ブースター接種も大きかったのではないかと感じています。接種のタイミングが前倒しされると政府の発表があった際、すぐに区と交渉してワクチンを提供してもらうことができました。それでも最近は職員やスタッフ家族に陽性者が出たことによって、濃厚接触者として出勤停止事例が少しずつ出ています。今のところ病院機能に影響はありませんが、今後これがどうなるかはわかりません。スタッフはみなさん、今の状況を理解してくれているので、モチベーションは非常に高く、私よりもガッツがあるくらいです。



### 満床が続く今日現状の課題は何か？

先ほどお話したように、入院患者の年齢が上がり、介護度の高い患者が増えています。もともと当院は回復期リハビリテーション病院です。スタッフは感染下でもリハビリテーションには介入していますので、対応には慣れていますが、施設に入所されていた認知症患者さんなど隔離がむずかしいケースも多い。他施設に応援に出ていたスタッフに戻ってきてもらうよう、人員強化には素早く対応しました。



### 最前線で戦う医師が感じる現在の医療業界とは？

医療は非常に圧迫されています。満床の状況では診ることができる患者さんがどうしても限られてしまう。また、回復期のリハビリテーション病院は都内にたくさんありますが、院内感染は起きています。脳疾患や整形疾患など緊急を要する方が救急であふれ、受入れされていない状態。医療崩壊は起きているのです。都が公表している病床使用率が50%に満たないにも関わらず、当院は1月21日からずっと満床で運用しています。当初は区中央部の患者さんをメインに想定していましたが、実際には都内幅広くから来院されています。

当院は回復期リハビリテーション病院です。現在、回復期リハビリテーションの患者さんの行き場がなくなっていることも事実。回復リハビリテーションを再開させることも使命です。コロナ対応とリハビリの併用は容易ではありません。感染状況を加味しながらどう再開するかが今の課題だと感じています。





重田院長の話を伺い、とても感心しました。まず、この状況においてスタッフが1人も感染していないこと。非常に素晴らしいことです。スタッフの意識の高さを改めて感じました。また、都内で病床使用率が30%のころから、石川島記念病院は満床。近隣の中央区以外にとどまらず、多くの方からのニーズがある。まさに社会貢献している病院だと思います。この知見をグループ内にも発信していただき、健育会全体の意識・技術の向上につながることを願います。

